

単元名 曲想を味わいながら合わせて歌おう2

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 曲想と全体の構成との関わりについての知識や全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。
- (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

標準的な展開例

12260301_001

【教材名】時を越えて (下 P. 20～P. 21)

【準備等】ワークシート、タブレット、デジタル教科書

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「時を越えて」の全体の構成を理解する。</p> <p>★「時を越えて」の全体の構成を理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1 番の範唱を聴取し、8 小節のまとまりを基本にして、全体の構成をとらえる。 ○ 主旋律の担当、強弱の設定、曲の山場（クライマックス）などを考えながら、パートごとに歌う。 <p>○ 再度、範唱を聴取して、曲想の変化を感じ取りながら全体の構成を理解する。</p> <p>2 「時を越えて」の 2 番かっこ以降の表現を工夫する。</p> <p>★ 2 番かっこ以降の表現を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パートに分かれて歌い、主旋律の担当、速度や強弱の設定などを確認しながら、2 番かっこ以降の表現を工夫する。 ○ パートごとに工夫した内容を発表し、表現しながら交流する。 <p>3 曲の構成と曲想の変化との関係や、パートの役割を生かして表現を工夫する。</p> <p>★ グループで表現を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各パート数名ずつのグループで表現し、曲想の変化について交流する。 ○ 最後の 4 小節の速度と強弱の設定を生かして表現を工夫する。 <p>○ グループで検討した内容を教科書やワークシートにまとめ、その内容を発表したり歌唱で表現したりして交流する。</p> <p>○ 学級として表現を工夫する内容を楽譜に記入し、確認しながらまとめの表現をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休符が付されていても、4（8）小節のまとまりを感じて歌わせる。 ・ デジタル教科書を活用して楽譜を提示し、学級全体で確認させる。 ・ 考えた内容を教科書に記録しながら活動させる。 <p>【評】曲想と全体の構成との関わりについて理解し、全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う活動を通して、「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 番かっこ以降が 26～33 小節の旋律が反復・変化していることを確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ パートの重なり方や役割、全体の構成について考えながら表現させる。 ・ タブレットの録画機能を活用させる。 <p>【評】「時を越えて」の表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じて、ふさわしい発音や発声についてアドバイスする。 <p>【評】「時を越えて」の表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】「時を越えて」の表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する活動に主体的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル教科書を活用して楽譜を提示し、学級全体で確認させる。 <p>【評】曲想と全体の構成との関わりについて理解し、全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

「時を越えて」を教材にして速度や強弱の設定を生かし、曲の山場（クライマックス）や担当するパートの役割を考えながら合唱で表現する技能を身に付けさせる。そして、曲想と曲全体の構成との関わりを理解し、全体の響きや他のパートを聴取して指揮やピアノ伴奏も含めて混声三部合唱の表現を工夫させる。

【共通事項】音色・速度・旋律・テクスチャ・強弱・構成